



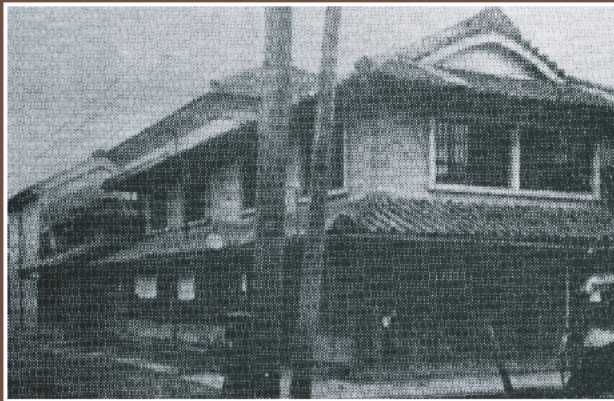
だいごじゅうにこくりつぎんこうあと  
第五十二国立銀行跡  
Site of the 52nd National Bank

第五十二国立銀行（現在の伊予銀行の前身）は、明治11（1878）年に誕生した銀行である。設立にあたっては旧松山藩士の小林信近が初代頭取となり、正岡子規の叔父大原恒徳も大きく関与し、支配人も務めている。恒徳は幼くして正岡家を継いだ子規の後見人として、常に子規が頼りにした相談相手であった。

司馬遼太郎著『坂の上の雲』（文藝春秋刊）では、正岡家と第五十二銀行の関係を描いている。

The 52nd National Bank (predecessor of the present Iyo Bank) is a Bank that was established in 1878. When it was established, a former Matsuyama feudal retainer Nobuchika Kobayashi became the first bank president. Shiki Masaoka's uncle Tsunenori Ohara also participated significantly, working as an executive of the bank. As the guardian of Shiki, who succeeded as head of the Masaoka family at a young age, Tsunenori was someone that Shiki could always rely on for help and advice.

The relationship between the 52nd Bank and the Masaoka family is portrayed in Ryotaro Shiba's novel *Saka no Ue no Kumo* (published by Bungei Shunju).



第五十二銀行本店（明治34（1901）年7月当時）  
（出典：『ふるさとの思い出写真集』図書刊行会刊）  
The 52nd Bank Main Office (July, 1901)  
（Source: "The Old Home Town Photo Album"）

家禄奉還金千二百円というのは、未亡人の母親が実家の大原家にあずけ、大原家はそれを伊予で設立された第五十二銀行にあずけ、さらにその一部を同銀行の株にしてくれた。正岡家はそれをすこしずつひきだしては生活費にあててきた。それでもう、二十年になる。家族が松山をひきはらって東京に出てきたときは、ほとんど底をついていたであろう。

（1巻より）